

日時 : 2009年2月16日(月) PM 10:00 ~ PM 5:00  
 場所 : 塗料報知新聞社 会議室  
 出席者 : 窪井氏(久保井塗装工業所)、広瀬氏(第一塗装工業)、内山氏、松本氏(東和酵素)、  
 小林氏(オーウエル)、杉山氏(アネスト岩田)、島田(旭サナック)  
 オブザーバー: 神田氏(日本工塗連)、平野氏(CEMA)  
 事務局: 有馬弘純氏(塗料報知新聞社) 10名 敬称略

\*\*\*\*\* 議 題 \*\*\*\*\*

1. VOC 対策セミナー実行委員会

実行委員: 窪井氏(実行委員長)、内山氏、松本氏、有馬氏、神田氏、平野氏、島田(副委員長)  
 時間: PM 10:00 ~ PM 12:00

(1) 本日の議題

- 1) 会場手配
- 2) 協賛
- 3) セミナー開催案内の方法
- 4) セミナー担当(司会、座長、講師など)
- 5) プログラム
- 6) 参加料(2000円)の振込み口座
- 7) その他
- 8) 実行委員会スケジュールと概要

(2) 結果

1) 会場手配

- ① CEMAシンポジウム関係者 吉野様(日ペプラント殿)に連絡済み。まだ回答無し。  
 ・電話にて確認する。(島田、(サポート: 平野氏))  
 ・日ペ殿を10名招待して会場費用に充てることも依頼する。

2) 協賛

- ① 主催: 工業塗装高度化協議会(日本工業塗装協同組合連合会・日本塗装機械工業会)とする。
- ② 協賛: 日塗工、日塗商、日塗装、日塗技、パウダー協、色材協
- ③ 協賛へ事前案内担当者

団体	協賛、主旨説明、各団体会員への参加依頼などの手段	ご担当
日塗工	製販装 2/20 会合に神田氏出席のため、この時に行う。	神田氏 (有馬氏)
日塗商		
日塗装		
日塗技	関係者と繋がりのある平野氏より伝える。	平野氏
パウダー協	鈴木専務理事へ電話にて伝える。	神田氏
色材協	2/27 総会に有馬氏出席のため、この時に行う。	有馬氏

- ④ 各団体へは案内状 100 部で、各団体の会員各社に発信して頂く依頼を含む。

### 3) セミナー開催案内の方法

- ① 4/20 の工塗連機関紙(工塗連ニュース)配布時に同封し、封筒には“重要書類同封”を記載。  
約 250 部。ご担当: 神田氏
- ② CEMAシンポジウム過去参加者 約 200 名をリストUPして発送する。  
ご担当: 平野氏
- ③ 上記協賛団体へ各 100 部を発送。

	発送先	発送部数	合計
1	協賛各団体	100 部 × 6 団体	600 部
2	工塗連会員(工塗連ニュース)	250 部	250 部
3	過去CEMAシンポジウム参加者	200 部	200 部
4	行政(環境省、経産省、東京都)など	未定	
5	その他(例:CEMA 会員各社)	(例:30 社 × 10 部)	300 部

### 4) セミナー担当(司会、座長、講師など)

- ① 司会: 有馬氏 (アンケート、資料(カタログ)、展示物、会場説明など総合的な面の担当)
- ② 座長: 島田(各発表の担当、質疑など)
- ③ 講師: 小林氏(塗装)、広瀬氏(洗浄)、窪井氏(塗料)、内山氏(産廃、VOC 処理装置)

### 5) プログラム

- ① 当初、5 テーマ発表を 4 テーマにする。
- ② 最後に質疑応答ディスカッション時間 20 分程度を設ける。
- ③ 各発表は 35 分以内。質問受付時間 5 分とする。
- ④ 休憩は 10 分とする。
- ⑤ 前半/後半の発表にテーマを持たせる。
  - ・前半テーマ案:「VOC 削減で儲ける」 3 テーマ(塗装、洗浄、塗料)
  - ・後半テーマ案:「VOC を含めた環境対策で儲ける」 1 テーマ(産廃リサイクル、VOC 処理)
- ⑥ 挨拶
  - ・開会: 山崎会長(工塗連)・・・(神田氏より依頼)
  - ・閉会: 小林会長(CEMA)・・・CEMA 理事会でセミナー内容と会長へ依頼(平野氏)
  - ・来賓挨拶: 省庁関係者・・・(人選担当: 窪井氏)
- ⑦ 各テーマ発表者(講師)は、発表タイトルを 3/18 までに決めておく。
- ⑧ プログラム作成担当 島田 3/18 までに作成し審議する。

### 6) 参加料(2000円)の振込み口座

- ① 振込み講座は神田氏、有馬氏で調整して頂く。  
(工塗連口座に統一案)
- ② 当日現金支払いの対応方法 → 次回協議
- ③ 領収書 → 次回協議
- ④ 関連して、印刷費・郵送費ほかの管理 → 次回協議

### 7) その他

- ① 3cm程度のバインダ必要。(カタログ収集状況により調整) → 次回協議
- ② CEMAへ講演依頼された団体、行政への参加者募集を加えて、目標 150 名を目指す。

8) 実行委員会スケジュールと概要

回	日程	主要議題
1	2/16(月)	上記
2	3/18(水)	①プログラム審議・確定、②案内状審議・確定(案内開始日など含む)、 ③アンケート案(平野氏作成、A4判1枚)協議、案内状配布先確認(2/16の報告) ④宣伝方法(HP、新聞、協賛への依頼)の日程と依頼方法 ⑤申込・振込先/当日現金支払いの対応方法/領収書について ⑥配布カタログ用バインダについて
仮	4/20(月)	案内状配布スタート
3	<del>4/16(木)</del> 4/23(木)	①アンケート審議・確定、②配布カタログの依頼内容の協議(GEMA会員・塗料メーカーetc.各社〇部?金額。※発表会社は無料)送り先:塗料報知
4	5/14(木)	①セミナー全体のアウトライン作成、②資料類まとめ作業日程決め ③会場準備内容の協議、④集客状況確認→再PR方法や日程決め
5	6/17(木)	セミナー前日より最終チェック(会場関係、発表内容関係)

時間: 10:00~ 場所: 塗料報知新聞社会議室

配布カタログのバインダ詰め作業など伴う場合は、別途日程調整を行う。

2. 環境技術分科会

(1) カプラ洗浄[第一塗装工業殿 広瀬氏]

1) 先回の結果(広瀬氏提出資料より議事に記載)

1Fライン平均結果

調査条件	1Fライン平均使用量	備考
カプラ採用前	363g/1回洗浄	3ブース合計
カプラ採用後	221g/1回洗浄	3ブース合計

$363g - 221g = 142g/1$  作業(day)

$221g \times 22$  日(生産日/月) =  $4641g \div 3 = 1.547kg/月$

1ブースあたりシンナー削減量/1ヶ月  $4.6 \div 3$  ブース = 約 1.5kg **39%削減**

2) 再調査報告

先回の検討した際調査方法を実施して頂き、その途中結果の報告がされました。

作業者のバラツキを無くすため、1人の担当ブースで実施。

① データ

	調査回数	総シンナー量	g/1回	時間
工程1	18	11800g	655	5分
工程2	18	12800g	711	5分30秒
工程3	調整中			

② 条件

		工程内容
工程1	従来タイプ	下洗浄→中洗浄→上洗浄
工程2		下洗浄→中洗浄→カプラ切り替え→上洗浄
工程3		下洗浄→カプラ切り替え→中洗浄→カプラ切り替え→上洗浄

- ③ 協議事項
  - ・工程 1 と工程 2 ではカプラ装着に効果は見られない。時間、量ともに増加。
  - ・実施方法や塗装システムの状態により効果が変わることの裏付けのデータとして発表に用いることが出来る。
  - ・今回の方法は工程 3 まで実施して頂くこととした。
- ④ さらに効果のある方法について協議
  - ・塗料タンクの位置を近づけ、ホース距離を短くし、内径をΦ6mmに細くして調査
  - ・下記項目で調査することが望ましい。手間が掛かるので検討して頂くこととした。

調査	条件
1	現行ホースで短くする
2	調査 1 のホース長でホース径をΦ6mmにする
3	調査 2 でホースをΦ6mm テフロンにする

- ・テフロンホース、ジョイントは窪井氏よりご提供。
- ⑤ 発表について
  - ・ブシュー(洗浄シンナーをブースへ廃棄)→カプラ→テフロンホース→ポンプの順番で分科会で調査した経緯も加えると良い。
  - ・圧送タンクを用いたウレタン塗料塗装システムの洗浄について完成形の最終発表が望ましい。

(2) スラッジ[第一塗装工業殿 広瀬氏]

- 1) 楽天商事殿への調査事項
  - ・ウレタン硬化剤の固まりが破碎できるか、廃粉体塗料(10kg)の可否について実施中。
  - ・粉体塗料は溶融ガスの発生有無など懸念事項。
- 2) ブースリフレッシャー[アネスト岩田殿 杉山氏]
  - ・2/25 より第一塗装工業殿にて試験予定。(含水率 60~70%まで可能)
  - ・完全乾燥のため、破碎ドライヤーの装置紹介がされた。(株)オカドラ
  - ・破碎ドライヤー借用可否について第一塗装工業殿 広瀬氏にて調査して頂く。
- 3) ペレットの成型化[オーウエル殿 小林氏]
  - ・ペレットを 10kgオーウエル殿へ発送済み。これで企業に検討して頂く。
  - ・箱物、ビーカー、ロート、プランターなどのような容器物を成型したいことを伝えて頂く。

(3) セミナー参加者へのスラッジ成型プレート提供

- ・「日本塗装機械工業会」「日本工業塗装協同組合連合会」「工業塗装高度化協議会」を成型文字とする。
- ・リサイクルロゴマークを考える。(松本氏) 関連して、協議会の略称・英字標記・ロゴマーク
- ・プレートの溶剤試験を行う。(島田)
- ・プレートに塗装できるか調査する。(窪井氏)

(4) 塗装/塗装機器の発表 [オーウエル殿 小林氏]

- 1) 発表パワーポイントについて
  - ・VOC 測定 of データを送る。(島田)
  - ・写真を提供する。(窪井氏、広瀬氏)
- 2) 内容
  - ・主な塗装ライン別に最適なモデル紹介があると良い。その 1 つの事例を他の講師で発表。

(5) 塗料[久保井塗装工業殿 窪井氏]

1) 水性塗料の取組みについて

- ① 現在まで環境対応塗料として、ハイソリッド、水性の樹脂部品塗装を行ってきた。
- ② 日本ビー・ケミカル(NB)や武蔵塗料での実績について、その時の実情など紹介された。

2) 発表について

① 設備投資無しで水性塗料の塗装が行える。

- ・水性塗料の転換は設備費が高いことが言われているが、高価な設備投資を実施しなくても塗装が行えた事例紹介を行い、お金のかからない方法を発表して頂く。
- ・ハイソリッド、武蔵塗料、NBの塗料による塗装方法の違いをまとめ、特に水性塗料での塗装に関して、注意点など内容に加えて頂く。

② 写真/動画

- ・水性塗料の塗装風景(霧化状態)の映像を加えて頂く。

3) 塗料メーカーの協力対応

- ・NB、武蔵塗料殿への情報提供依頼、説明会実施の調整。

3. 次回予定(環境技術分科会)

1) 第2回 VOC対策セミナー実行委員会

2009年3月18日(水) 午前10時～塗料報知新聞社会議室

<予定議題> 上記記載

2) 第9回 環境技術分科会

2009年3月18日(水) 午後1時～塗料報知新聞社会議室

<予定議題>

1. セミナー実行委員検討結果の審議

2. 各テーマの経過報告

- ① 洗浄調査報告
- ② 産廃処理作業の改善(ブースリフレッシャーの効果)
- ③ ペレット、成型品評価(成型企業からの回答)
- ④ 塗装・塗料・塗装機器のテーマ進捗報告
- ⑤ その他経過報告

3. 塗料メーカー(武蔵塗料殿など)の商品紹介 (30分程度)

————— 以 上 —————